

発行 2019年12月20日
 発行者 日本笑顔プロジェクト本部
 代表 林映寿
 〒381-0211 長野県上高井郡小布施町
 雁田 676 浄光寺内 電話:026-247-3924
 制作 燕遊舎

ボランティアのためのボランティア Report 仮設トイレ改善大作戦



台風19号の被害を受けたエリアでは、現在も大勢の方々によるボランティア復旧活動が続いています。その中で、意外と見過ごされがちなことのひとつが、仮設トイレ。その不備が、場所によってはボランティア不足の一因ともなっているようです。

日本笑顔プロジェクトでは11月上旬から、地域住民のみならずとの連携により、仮設トイレの新規設置と環境改善に取り組んできました。より快適な仮設トイレの設置・運営を促し、安心して復旧活動を進めることができる環境づくりを進めたいと思っています。

ボランティア活動で 切実なトイレ問題

日本笑顔プロジェクト(笑顔P)は、小布施町をはじめ、長野市赤沼・津野・大町・穂保などで活動する復旧ボランティアの方々ときさまざまな協力関係を築きながら、果樹畑の排土や炊き出しなどに取り組んでいます。

各地の活動に参加しながら、被災された方々やボランティアさんらにヒアリングを行ってみると、看過できない一つの課題に行き当たりました。それが仮設トイレです。

早朝から夕方まで、被災した家屋や農地で活動を行うボランティアの方々にとって、食事はもちろんのこと、トイレの問題はとても切実。女性であればなおさらです。

11月5日、ボランティアに参加した人たちの声を聞いてみると、何よりも仮設トイレの衛生面が問題となっていることがわかりました。

笑顔Pの林映寿代表が実際に目にした例の一つに、緊急用の段ボール応用型の仮設トイレがありました。これは1回使用することによって便座内に装着された袋を交換するしくみですが、正しい使い方がなかなか周知されず、同じ袋を複数の人たちが繰り返し使用してしまうケースが後を絶たず、後始末に苦慮しているようでした。

また、仮設トイレの設置まではされても清掃や管理まで手が回らず、結果的に衛生的に難が生じ、仮設トイレはあっても使用するのにかなり抵抗感が強いという状況も。

こうした事情のため、ボランティアが思うように集まらない状況まで生まれていたといいます。

「笑顔トイレステーション」 続々誕生

民間だからこそできる支援とは何か? 考慮の末に、笑顔Pでは独自に復興地への仮設トイレ設置を行うことを決めました。名づけて「笑顔トイレステーション」。

トイレ問題を知った翌11月6日、早速仮設トイレ業者を探してみると、被災した各地でも需要が急増しているようで在庫が見当たりませ

ん。翌7日になってようやく、千曲市の業者、有限会社瀬下衛生社さんに手配をすることができました。

ところが調べてみると、復興地エリアの汲取業者さんも被災し、バキュームカーが水没

してしまったことが判明。業者さんとなかなか連絡が取れず、3日間の張り込み!? の末にようやく連携体制づくりが進みました。

併せて、仮設トイレの維持管理体制を構築。被災された方々を中心に相談の末、地元

笑顔トイレステーションの設置場所

The map shows the following locations for Smile Toilet Stations:

- E-15 中村農園 (Nakamura Farm)
- E-5 赤沼公園 (Akino Park)
- E-1・2 長沼小 (Naganuma Elementary School)
- E-3・4 (Location near R18)
- E-6~8 (Location near 長沼体育館)
- E-9~14 アグリながぬま (Agriculture Naganuma)

Other locations marked on the map include 豊野 (Toyono), 飯山 (Iiyama), 北しなの線 (Kita-Shinano Line), 北陸新幹線 (Tohoku Shinkansen), 千曲川 (Kiyosaki River), 大町 (Oomachi), 穂保 (Hosoho), 須坂 (Susaka), 長野 (Nagano), 小布施 (Obuse), 信州中野 (Shinshu Nakano), and 上信越道 (Shinshu Tohoku Expressway).



中村農園さんに設置したバイオトイレ。杉のバイオチップ内に生息する微生物たちが排泄物を分解・消滅させてくれます。温度や湿度はコンピュータ制御により自動管理。

地区や社会福祉協議会、近隣住民などの協力を得て、清掃と紙・水の補給を継続的に担っていただけることになりました。

さらに冬季は、水が凍らないよう不凍液の補充も必要。不凍液も決して安価ではありませんが、凍結により設備が破損してしまうと修理に時間や費用がかかるため、これも欠かせない課題です。

しかし、みなさまからお寄せいただく支援金のみで運営している笑顔Pでは、資金も充分ではありません。そこで林代表は、自身が所属する真言宗豊山派仏教青年会の執行部メンバーに連絡。同会の災害救援基金からも仮設トイレの設置費用を拠出してもらう承諾を得ました。

こうして、2019年11月8日から始まった笑顔トイレステーションの設置。配置場所と台数は、長野市穂保の住宅街に3台、ごみ置場に2台、農業ボランティア受付に6台、同市赤沼の住宅街に1台、同市津野の飲食店駐車場に2台。穂保の農業ボランティア受付では、当初3台を設置しましたが、利用者が多く不足気味だったため、3台を追加し計6台となりました。

たどり着いた 超ハイテク「バイオトイレ」

仮設トイレの設置と維持管理体制づくりが進み、各地から喜びの声をいただきました。しかし設置台数の増加とともに新たな課題も浮上。冬には必需品となる不凍液の購入費不足。そして復興地の冷え込みが厳しさを増すにつれ、仮設トイレの利用頻度も高まってきたようで、汲みどりの依頼も頻繁に。

仮設トイレの維持管理にかかる負担をなんとか低減できないかと思案する中で、林代表がふと思い出したのが、かねてから知っていた「バイオトイレ」の存在でした。

バイオトイレとは、微生物の力で排泄物を

水と炭酸ガスに分解・消滅させるという優れたもの。汲み取り不要！水不要！というメリットから、復興地には最適な超最新ハイテクトイレです。

杉のバイオチップを使用し、微生物を繁殖させるメカトロニクス技術を駆使して、コンピュータで微生物が息・増殖する環境(水分・温度・酵素)を自動制御します。微生物の活発な活動で臭気の発生を自動抑制し、いやな臭いも抑えてくれるものです。

情報収集してみると、長野県東御市にバイオトイレのメーカー、コトヒラ工業株式会社さんがいることが判明。早速同社へ問い合わせしてみると、近隣のレンタル業者、北日本建材リース株式会社さんを紹介していただくことができました。

バイオトイレは水を使わず、汲みとりも不要、さらに臭気もない！これは大きな魅力でした。その反面、通常の仮設トイレのレンタルは1日換算で約400円、それに対しバイオトイレの場合は1日1200円ほど。レンタル料が高くなることに加え、電源も必要。さらに運搬費や返却時のメンテナンス料などを合わせると、結構な金額となります。

バイオトイレの有用性を充分承知しながらも、同じ費用をかけるなら通常の仮設トイレを複数設置したほうがよいだろうと判断せざるを得ませんでした。

ところが数日後、北日本建材リースさんから林代表宛に1通のメールが。「社内で検討の結果、被災現場での利用という事情も考慮の

上、リース料なし、運賃のみで試しに1台利用していただいていたという意見が出た」というのです！担当者の方は笑顔Pのブログをご覧ください、その支援活動にも共鳴してくださったようでした。

機種は、1台で1日に大小合わせ50回使用分の処理能力をもつタイプ。これを女性専用・大専用とし、汲み取り式の仮設トイレを併設して女性の小専用とするという使用方法をご提案いただきました。100ボルトの電源を常時使用することでしたが、運賃のみで借用できるというありがたい申し出を喜んでお受けすることに。

最新鋭の笑顔トイレステーション誕生！

そして11月30日。長野市赤沼の中村農園さんを舞台に、同園と共催したイベント「復興の狼煙！笑顔で焼き芋プロジェクト」で、バイオトイレ第1号、通算では15台目となる笑顔トイレステーションのお披露目にこぎつけました。

導入したのは、信州産唐松を使った天然木タイプ。最大処理能力は1日あたり70回と、かなりの量に対応します。また使用しているバイオチップは1年に1回交換すればよいという簡単メンテナンス。電源は中村農園さんに、また清掃は利用者のみなさんに協力をいただいて運営していきます。

従来の仮設トイレのような臭気の問題はほとんどなく、水の補給や汲み取りが不要のバイオトイレは好評。利用者のみなさんからは、次のような声が届いています。

「暖房便座なので、寒い中でも快適に使用できた。室内がもう少し広く、荷物置場があればなお安心。」

「臭いがなく、環境に優しいのが素晴らしい！」

また「前に使った人がきれいに清掃してくれていたの、気持ちよく使うことができた」との感想も。メンテナンスも含めて、バイオトイレの運営は順調なスタートとなりました。

笑顔Pでは、この笑顔トイレステーション15号の利用状況を見ながら、今後の仮設トイレ導入計画を考えていく予定です。

<支援金のおねがい>

日本笑顔プロジェクトは民間任意団体で、公的資金援助を受けておらず、みなさまからの支援金のみで運営しております。仮設トイレの設置やその後の汲みとり料などにもご支援をいただけますよう、なにとぞよろしくごお願い申し上げます。

随時SNS上で活動報告をさせていただきます。

日本笑顔プロジェクト 代表 林映寿

八十二銀行(ハチジュウニギンコウ)

小布施(オホセ)支店(252)

口座番号 普通:211038

口座名 日本笑顔プロジェクト
(ニホンエガオプロジェクト)

※口座番号に7桁の指定がある場合は、先頭部分に「0」を入力して、[0211038]としてください。